

名手集う！濃密にして、究極の弦楽アンサンブル



Violin
毛利
文香



Violin
小川
響子



Viola
杉田
恵理

©masatoshi yamashiro

©Clara Evens

©Sihoo Kim

リゲティ、マルティヌー、ドヴォルザーク、コダーイ
歌い、踊り、語り合う—— 中欧・東欧、弦楽室内楽の精華

2026年

4月28日(火)

開場 18:30/開演 19:00

入場料:会員5,000円(座席指定可)

一般5,500円/学生2,500円(全席自由席)

<プログラム>

リゲティ: バラードとダンス(2つのヴァイオリン編)

マルティヌー: ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲第1番
「3つのマドリガーレ」H.313

ドヴォルザーク: 2つのヴァイオリンとヴィオラのための三重奏曲
ハ長調 Op.74

グラジナ・バツェヴィチ: 2つのヴァイオリンのための組曲

マルティヌー: 2つのヴァイオリンとヴィオラのためのセレナーデ第2番 H.216

コダーイ: 2つのヴァイオリンとヴィオラのためのセレナーデ Op.12

*やむを得ない事情により日時・内容等の変更、中止等がある場合があります。



毛利文香&小川響子&杉田恵理

トリオリサイタル



123 Shibuya Mitake Salon (vol.191)

2026年4月28日(火) 開場 18:30/開演 19:00

入場料: 会員5,000円(座席指定可)/一般5,500円/学生2,500円(全席自由席)

名手集う! 濃密にして、究極の弦楽アンサンブル

リゲティ、マルティヌー、ドヴォルザーク、コダーイ
歌い、踊り、語り合う——中欧・東欧、弦楽室内楽の精華

クァルテット・ベルリン・トウキョウ創設メンバーであり、フィンランド放送交響楽団副首席奏者を務めるなど、国際的な活躍が著しい彼女は、卓越したテクニックと驚くほどのバランス感覚によって、アンサンブルはしなやかに、しかし確固たる骨格をもって立ち上がる。彼女がいることで、三つの声部は一層自然に溶け合い、どんな音楽も安心して委ねられる。

ヴァイオリン二挺とヴィオラ、わずか三本の弦楽器。
しかも冒頭に置かれているのは、リゲティの《パレードとダンス》。
このプログラムを目にしたとき、多くの人は「これは相当な玄人向けの演奏会ではないか」と身構えるかもしれない。

この演奏会の魅力は、音の多さや派手さにあるのではない。
三本の弦楽器が生み出す親密な対話、音と音の間に宿る気配、視線や呼吸までもが音楽になる瞬間——

しかし実際にこの演奏会で体験する音楽は、決してそうした構えを必要としない。
むしろ、旋律は自然に耳に入り、リズムは身体にすっと馴染み、気づけば音楽の流れの中に身を委ねている——そんな時間が用意されている。

クラシックに親しんできた方にも、これから深く触れていきたい方にも、等しく開かれた、滋味深い一夜となるだろう。

(渋谷美竹サロン)

プログラムは中欧・東欧の作品を軸に構成されている。
民謡や舞曲に根ざしたリズム、素材でありながら忘れがたい旋律、そして声部同士が会話を交わすように進んでいく書法。
リゲティ、マルティヌー、ドヴォルザーク、パツェヴィイチ、コダーイ——
時代も作風も異なる作曲家たちが、三本の弦楽器によって鮮やかに結びついている。



毛利文香 (Fumika MOHRI) Violin



小川響子 (Kyoko OGAWA) Violin



杉田恵理 (Eri SUGITA) Viola

この音楽を支えるのが、三人の奏者の圧倒的な個性と信頼関係である。
数々の国際コンクールに入賞し、ソリストとして、また室内楽奏者として、国際的にも高い評価を受ける毛利文香。

彼女のヴァイオリンには、言葉で言い尽くすことのできない迫力があり、まるで女王がマントをまとって静かに玉座に着くかのような、揺るぎない風格と存在感が舞台を満たすのである。

その音楽には芯の強さと揺るぎない自信があり、どんな複雑な楽想であっても、大きな流れとして聴き手に提示する力がある。

奏トリオのメンバーとして、また名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターとして活躍を続ける小川響子は、作曲家の内なる声をすくい上げるように、音を人の心へと届ける。

彼女のヴァイオリンは、内なる音楽の源から音楽の命を引き出して示すようなアプローチであり、その幸運な瞬間にふれることができた聴き手は、思わず息を呑み、その幸福を静かに味わうことになる。

そして杉田恵理のヴィオラは、この三人の音楽を根底から支える存在だ。

2012年、第8回ソウル国際音楽コンクール第1位。2015年、第54回バダニーニ国際ヴァイオリンコンクール第2位、エリザベト王妃国際音楽コンクール第6位。2019年、モントリオール国際音楽コンクール第3位。横浜文化賞文化・芸術奨励賞、ホテルオークラ音楽賞など受賞多数。
桐朋学園大学ソリストディプロマコース、洗足学園音楽大学アンサンブルアカデミー、クンベルクアカデミーを経て、ケルン音楽大学を最高点で修了。これまでに、田尻かをり、水野佐知香、原田幸一郎、ミハエラ・マーティンの各氏に師事。
楽器は、笹川音楽財団(旧・日本音楽財団)より、1717年製のストラディヴァリウス「サセルノ」を貸与されている。

東京藝術大学を経て、同大学院修士課程修了。ベルリン・フィルハーモニー・カラヤンアカデミーを修了。第10回東京音楽コンクール第1位及び聴衆賞、リヨン国際室内楽コンクール二重奏部門第3位、奏トリオとして2018年ARDミュンヘン国際音楽コンクール優勝。奏トリオでは、9枚のCDをリリースし、レコード芸術誌に特選盤に選ばれるなど、好評を得ている。
サントリーホール室内楽アカデミー第3、4期フェロー。
これまでに、国内の主要ホールその他、ヨーロッパ、アメリカやアジアでの公演や音楽祭に数多く出演。室内楽奏者、ゲストコンサートマスター、ソリスト等、国内外で活動している。
奏トリオヴァイオリン奏者、名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター。

桐朋学園大学、クンベルク・アカデミー、ベルリン芸術大学、ハノーファー音楽大学卒業。Quartet Berlin-Tokyo 創設メンバーとして活動し、ARDミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門特別賞を皮切りに、シュペルと現代音楽国際コンクール第3位、ニールセン国際室内楽コンクール第2位、オーランド国際弦楽四重奏コンクール優勝など多数の国際コンクールで受賞。
フィンランド放送交響楽団副首席奏者を経て、ベルリン・コンツェルトハウス室内オーケストラ、大阪フィル、日本フィル、京響などに客演首席として出演。国内外の音楽祭に招かれ、ベルリン・フィルハーモニー、アムステルダム・コンセルトヘボウ等で演奏。文化庁、ローム等の助成を受ける。
現在日独を拠点に活動。使用楽器はサントリー芸術財団貸与のハロ・アントニオ・テストーレ(1728年製)



大ホールのプラチナ席をしのご生演奏の醍醐味、一期一会で味わう圧倒的な臨在感。

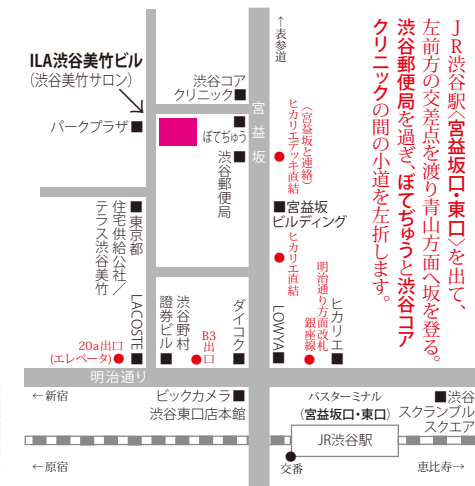
日本のトップクラスの演奏家たちが、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。

渋谷美竹サロン(美竹清花さろん)が追求する
“本物の音楽”は、演奏者と参加者とわたしたちの、
三位一体の努力と対話から生まれます。



誕生。クラシック音楽サロン、宮益坂、渋谷駅 徒歩2分

サロン・メンバーズ
入会の詳細はこちら
(一時停止中)



JR渋谷駅(宮益坂口・東口)を出て、
左前方の交差点を渡り青山方面へ坂を登る。
渋谷郵便局を過ぎ、ぼてちやうと渋谷コア
クリニックの間の小道を左折します。

●お問い合わせ
株式会社 ILA 渋谷美竹サロン (美竹清花さろん)
東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)
☎ 03-6452-6711 (月・金 10:30-17:00)
070-2168-8484 (繋がりにくい場合)
Fax 03(3409)0188
公式Webサイト

